

山階芳麿賞について

山階鳥類研究所は、平成 4 (1992) 年 7 月に行われた財団創立 50 周年記念行事の一環としてこの賞を設けることにした。この賞は日本の鳥学及び鳥類保護に寄与された、財団法人山階鳥類研究所の創立者・故山階芳麿博士の功績を記念して、「山階芳麿賞」と名付けた。

山階芳麿賞は、国内において鳥学及び鳥類保護に顕著な功績のあったものを讃え、わが国の鳥学の発展並びに鳥類保護の振興に寄与することを目的としている。

受賞者は「山階芳麿賞」選考委員会で選考される。受賞者は、隔年度 1 名とし、選考の結果該当者がいない場合には、その年度の表彰は行わない。選考委員会は山階鳥類研究所所長が委員長を務め、山階鳥類研究所副所長、理事及び評議員 (5 名以内)、学識経験者 (5 名以内)、その他理事長が必要性を認め適格と判断する者 (若干名) で構成される (注)。受賞者の選考は、出席選考委員の過半数をもって決定する。

受賞者には、山階鳥類研究所総裁・秋篠宮文仁親王が表彰する予定で、表彰状と山階芳麿賞記念メダルを贈呈する。記念メダルのデザインは、表・山階芳麿博士肖像、裏・ヤンバルクイナのレリーフとなっており、受賞年と受賞者氏名が刻印される。ヤンバルクイナは沖縄県で発見され、昭和 56 (1981) 年に山階芳麿博士らが新種として発表した山階鳥類研究所のシンボルの一つ。なお、平成 15 (2003) 年度からはさらに副賞として「朝日新聞社賞」(賞金 50 万円と盾) が贈られている。

歴代受賞者については別紙を参照のこと。

(注) 第 16 回山階芳麿賞の選考は、平成 21 (2009) 年度に行われた。

山階芳麿博士の業績

山階芳麿博士 (1900~1989) は、幼い頃から鳥に興味を持っていたが、昭和 4 (1929) 年に動物学の基礎を学ぶため帝国大学 (現東京大学) 理学部動物学科選科に入学、同 6 (1931) 年に修了後、昭和 7 (1932) 年に山階鳥類研究所の前身である山階家鳥類標本館を設立した。その後、鳥類の研究に没頭し、積極的にアジア・太平洋地域の鳥類標本を収集し、分類研究を行った。昭和 14 (1939) 年から、北海道帝国大学 (現北海道大学) の小熊捍教授の指導を受けて鳥類の雑種不妊性の研究を行い、昭和 17 (1942) 年「鳥類雑種の不妊性に関する研究」で同大学から理学博士号を受けた。その後、引き続いて鳥類の染色体型の研究に取り組み、鳥類分類に染色体を利用する方法を導入、この成果を昭和 24 (1949) 年に「細胞学に基づく動物の分類」として出版した。この業績は、主観的な形態分類に代わる客観的な分類法として国の内外から高く評価され、これにより翌年、日本遺伝学会賞を受賞した。また戦後、国内の蛋白質不足が著しくなったことから、文部省から「ニワトリの増殖」について研究委託を受け、多産で肉質がよいニワトリの品種改良にも取り組み、このほかバリケンとアヒルの雑種ドバンの増殖研究にも力を入れた。その後、研究だけでなく、鳥類保護とその普及啓蒙にも熱意を注いだ。日本鳥学会会頭、日本鳥類保護連盟会長、国際鳥類保護会議副会長、同アジア部会長などの役職を歴任した。

同博士の主な著書には、「日本の鳥類と其生態」(第 1 巻 : 1933、第 2 巻 : 1941) があり、また「世界鳥類和名辞典」(1986) がある。「世界鳥類和名辞典」は世界の鳥類全種に和名を付けたもの。

昭和 52 (1977) 年に、鳥学の世界のノーベル賞とも言われる、ジャン・デラクール賞を受賞。翌 53 (1978) 年には「世界の生物保護に功績があった」としてオランダ王室から第 1 級ゴールデンアーク勲章を受けた。

山階芳麿賞 歴代受賞者

回数	氏名	所属・職名	受賞年月日	備考
第一回 (贈呈理由)	羽田健三	信州大学名誉教授 独創的な雁鴨(ガンカモ)科鳥類の群集生態学研究 鳥類生態学を志す後進の育成	平成 4 年 7 月 3 日	H 6 年 11 月逝去
第二回 (贈呈理由)	松山資郎	山階鳥類研究所顧問 元農林省主任研究官、元山階鳥類研究所事務局長・資料室長 応用鳥学・野生鳥類の保護管理に関する基礎的研究 野生鳥類保護管理に関する後進の指導	平成 5 年 7 月 5 日	H12 年 8 月逝去
第三回 (贈呈理由)	中村 司	山梨大学名誉教授 鳥類の渡りに関する生理学的研究 地元における鳥類保護・自然保護の推進	平成 6 年 7 月 5 日	
第四回 (贈呈理由)	黒田長久	山階鳥類研究所所長 鳥類の形態・生態に関する幅広い分野の研究 現代鳥学界における礎石的存在	平成 7 年 7 月 5 日	H21 年 3 月逝去
第五回 (贈呈理由)	中村登流	上越教育大学名誉教授 鳥類社会学に関する長年の研究 鳥類社会学を志す後進の指導	平成 8 年 7 月 3 日	H19 年 11 月逝去
第六回 (贈呈理由)	正富宏之	専修大学北海道短期大学教授 我が国の動物行動学の発展に貢献 長年タンチョウの生態研究と保護に尽力	平成 9 年 9 月 9 日	
第七回 (贈呈理由)	樋口広芳	東京大学大学院教授 鳥類生態学に生物進化の多次元性を取り入れた研究 渡り鳥の人工衛星追跡調査手法を確立し鳥類保護に貢献	平成 10 年 7 月 4 日	
第八回 (贈呈理由)	山岸 哲	京都大学大学院教授 鳥類の社会生態学的研究の推進と オオハシモズ科の適応放散の研究と保護に貢献	平成 11 年 7 月 3 日	現・山階鳥類研究所名誉所長

回数	氏名	所属・職名	受賞年月日	備考
第九回 (贈呈理由)	藤巻裕蔵	帯広畜産大学教授 エゾライチョウの野外研究を基にその飼育や保護管理に貢献 日本とロシアの鳥類研究者との交流を推進	平成 12 年 6 月 17 日	
第十回 (贈呈理由)	小城春雄	北海道大学大学院教授 北太平洋における海鳥の生態解明とその研究成果を基にした 海鳥保護の推進および後進の指導に尽力	平成 13 年 6 月 1 日	
第十一回 (贈呈理由)	中村浩志	信州大学教授 カッコウの宿主の共進化特に宿主転換と宿主に対応する托卵 系統の存在を明らかにし、後進の指導に尽力	平成 14 年 6 月 7 日	
第十二回 (贈呈理由)	石居 進	早稲田大学名誉教授 鳥類の生殖腺刺激ホルモンの解明に取り組み、絶滅危惧種の 繁殖促進に貢献し、後進の指導に尽力	平成 15 年 9 月 23 日	
第十三回 (贈呈理由)	由井正敏	岩手県立大学教授 森林性鳥類の個体数推定の推定法を確立、森林と鳥類群集の 関係を基礎応用の両面から追究し、後進の指導に尽力	平成 16 年 9 月 23 日	
第十四回 (贈呈理由)	長谷川博	東邦大学教授 生態学と行動学の科学的知見をもとにアホウドリの個体数回復 を成功に導き、鳥類保護に関して社会に対する普及啓蒙を实践	平成 18 年 9 月 23 日	
第十五回 (贈呈理由)	立川涼	愛媛大学名誉教授 人間活動由来の汚染物質が鳥類をはじめとする生態系に与える 影響を明らかにし、社会に対する啓蒙と後進の指導に尽力	平成 20 年 9 月 23 日	

第16回山階芳麿賞受賞者の紹介



- 【氏名】** 森岡弘之 (モリオカ ヒロユキ)
- 【所属機関】** 国立科学博物館
- 【生年月日】** 1931年12月18日 東京生まれ
- 【職名】** 名誉研究員
- 【連絡先】** 電話 国立科学博物館新宿分館 03-3364-2311 (代表)
- 【学歴】** 1960年3月 京都大学大学院理学研究科修士・博士課程修了
1967年10月 イリノイ大学 (アメリカ合衆国) 大学院博士課程修了
PhD 取得
- 【職歴】** 1967年7月 アメリカ自然史博物館鳥類学部研究員
1972年6月 国立科学博物館研究員
1982年4月 国立科学博物館第一研究室長
1995年4月 国立科学博物館動物研究部長
1996年3月 同上退職
1996年4月 国立科学博物館名誉研究員
- その他役職等
日本鳥学会評議員、庶務幹事、編集幹事、副会頭、会頭を歴任。
- 【称号】** 1996年4月 国立科学博物館名誉研究員
- 【主な専門分野】** 鳥類分類学、比較形態学 (骨学) ・比較解剖学 (筋肉)

【研究業績】

論文

The skull of *Regulus regulus*, with some remarks on the taxonomic status of Regulidae. Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, (B), 27: 59-64, 1960. [キクイタダキの頭骨とキクイタダキ科の地位]

Anatomy and relationships of thrushes, mimic thrushes, dippers, and wrens. Dis. Abst. (1968): 1-2, 1968. [ツグミ, マネシツグミ, カワガラス, ミソサザイの形態と類縁関係] (学位論文)

Morphology and evolution of the ectethomoid-mandibular articulation in the Meliphagidae. J. Morphol., 135: 13-50, 1971. (With W. Bock.) [ミツスイ科における外篩骨一下顎骨関節の形態と進化]

Jaw musculature of swifts (Aves, Apodidae). Bull. Natl. Sci. Mus., 17: 1-16, 1974. [アマツバメ類の顎筋の比較解剖学的考察]

琉球列島の鳥相とその起源. 国立科博専報, (7): 203-211, 1974.

Observations on the ecology and behavior of *Apalopteron familiare* (Aves, Meliphagidae). Mem. Natl. Sci. Mus., (11): 169-188, 1978. [小笠原のメグロ (*Apalopteron familiare*) の生態および行動に関する観察]

Generic allocation of the Japanese Marsh Warbler *Megalurus pryeri* (Aves: Sylviidae). Bull. Natl. Sci. Mus., Zool., 19: 37-43, 1993. [オオセッカ *Megalurus pryeri* の属的帰属]

A New Subspecies of *Zoothera dauma* (Aves, Turdidae) from Iriomotejima, Southern Ryukyus, with Comments on *Z. d. toratugumi*. Bull. Natl. Mus. Sci., Ser. A, 35(2): 113-124, 2009. (With I. Nishiumi) [西表島産トラツグミの新亜種記載]

ほか多数。

単行本

「日本鳥類目録」改訂第4版. 264p. 日本鳥学会. 1958. (共著)

「日本鳥類目録」改訂第5版. 364p. 学研, 1974. (共著)

「日本鳥類目録」改訂第6版. 345p. 日本鳥学会, 2000. (共著)

「動物系統分類学」追補版. (共編) 451p. 東京, 中山書店. 2000.

「鳥類学辞典」(共監修) 950p. 京都, 昭和堂. 2004.

「脊椎動物の多様性と系統」松井正文編. 403p. 東京, 裳華房. 2006. (分担執筆)

ほか多数

【学会・社会活動】

日本鳥学会、British Ornithologists' Club の会員

(過去に British Ornithologists' Union, American Ornithologists' Union, British Ecological Society, 日本生物地理学会等に所属)

森岡弘之氏へ山階芳麿賞の贈呈理由

山階芳麿賞選考委員長 山岸 哲

森岡弘之氏は、鳥類の比較形態学、機能解剖学の手法による分類学に大きな業績を残されました。

属レベル以上の類縁関係を研究する大分類学の分野では、主にスズメ目とその近縁の鳥類について数多くの研究を行っておられます。たとえば、Walter Bock 氏との共同研究でミツスイ科について、単独の研究としてアマツバメ科について、機能解剖学的な観点から、顎の関節と筋肉の形態の適応と機能を調べ、進化と系統を考察しました。アマツバメ科については、飛びながら小昆虫類を捕食するのに高度に適応している点で共通するツバメ科との比較で、両者が外部形態や頭骨の構造においては類似していながら、顎筋においては異なっており、骨格-筋肉系の仕組みは違うことを示し、ツバメ科はスズメ目の鳥で、アマツバメ科とは別個に進化したとする従来の学説を支持する結果を得られました。

また種レベル以下の類縁関係を研究する小分類学の分野では、日本産スズメ目鳥類の分類に貢献しておられます。特に、「日本鳥類目録」(改訂4版、5版、6版、日本鳥学会)で分類を担当され、スズメ目鳥類の分類を整理されたことは重要な業績です。目録の作成は、識別できる種を整理し、正しい学名を与える作業であり、分類学はもとよりすべての生物学の研究に不可欠の仕事です。また森岡氏は、アカコッコ、オガサワラマシコ、オオセッカ、アカヒゲ、メグロなど日本の特産種、準特産種の類縁関係を研究しておられます。これらの研究成果の中には、メグロの分類、オオセッカの属的帰属のように、後に DNA を用いた分子分類などの結果と一致した場合も少なくありません。

このように、森岡弘之氏は、鳥類学のすべての分野の基礎となる鳥類分類学において、大分類学と小分類学の両方の分野にわたって研究成果をあげられました。そして、専門分化の著しい現代にあつて、森岡氏の学識は、分類学、解剖学、形態学にとどまらず、生物地理学、生態学、行動学も含めた幅広い分野に亘っており、まさに「日本最後の鳥類学者」ということができます。「日本鳥類目録」をはじめとする学術書のほか、普及的な著作も多数執筆されており、社会に対する貢献も多大なものがあります。そこで、山階芳麿賞選考委員会は、鳥類の学術研究の功績を重視して選考する山階芳麿賞に誠にふさわしいものと判断し、第16回山階芳麿賞を森岡弘之氏に贈呈することにいたしました。

お知らせ :

第 16 回山階芳麿賞贈呈式について

第 16 回 (平成 22 年度) 山階芳麿賞の贈呈式と記念シンポジウムを下記日程で開催する予定です。詳細が決定しましたら、改めてお知らせいたします。

【名称】 第 16 回山階芳麿賞贈呈式と記念シンポジウム

【日付】 平成 22 (2010) 年 9 月 23 日 (木・祝)

【場所】 けやきプラザ ふれあいホール

千葉県我孫子市本町 3-1-2 (JR 常磐線我孫子駅前)

【内容】

- ・ 贈呈式
- ・ 記念シンポジウム「かたちの多様性」(予定)